

未来の土木コンテストに協賛、 未来プランナーのアイデア具体化を競う

土木工事技術委員会は、去る一月二十九日、お台場の日本科学未来館において開催された、(公社)土木学会が主催する「未来の土木コンテスト2022」最終選考会に協賛団体として参加した。

「未来の土木コンテスト」は、土木学会一〇〇周年記念事業の一つとして二〇一四年度に第一回を開催、その後二〇一七年度に第二回が開催され、コロナ禍による中断を経て今年度第三回目の開催となったものである。

今回のコンテストでは、土木学会が二〇二二年七月〜九月初旬にかけて、全国の小学生を対象に未来のまちがどのようなものでありたいか、そのアイデアを募集し、集まった二八件のなかから十月に一次選考で五件を優秀賞として選定した。土木工事技術委員会の五つの部会はアイデアを提案した五人の未来

プランナーと個別にチームを組み、現在可能な技術、あるいは近い将来実現可能であろう技術を取り交ぜて、二カ月少々でその具体化を提案した。

優秀賞のアイデアはいずれも環境問題、防災、循環型社会をテーマに描いたものであり、小学生のこうした分野への興味の深さがうかがえた。アイデアのなかには、球形の憩いの場で災害が発生しても皆笑顔で快適に過ごせる、あるいは環境破壊から住民を守る海底地底都市に遊園地を作る、といった小学生ならではの発想があり、土木学会から「プロのエンジニア」と紹介された五つの部会のメンバーが精力的に具体化を検討した。

今回のコンテストは新型コロナウイルスの影響で二度延期されたが、コロナによってWeb会議に慣れたこともあり、遠方の未来プランナー

とはオンラインでやり取りを行った。一方、リハーサルのために未来プランナーを訪れ念入りな打ち合わせをした部会もあった。どの部会も個社に限らず業界として持てる技術を駆使し、プレゼンテーションも含めて具現化を競い合った。

最終選考会では、松永昭吾委員長(噂の土木応援チーム デミールとマツ主宰)以下五人の審査員によって、土木技術研究部会が担当する山口県の小学生、川戸亮輔君の「シン・防災センター(憩いの場所)↓最新防災拠点」が最優秀賞に選ばれた。プレゼンターには前回の最優秀賞に選ばれた遠藤萌花さんが山形県から駆け付け、賞状を手渡した。当時小学六年生だった遠藤さんは今では高校二年生となり、五年前の担当部会のメンバーとの再会を喜んでいた。

こうした取組みが、建設業界に興

味を持つ若年層の発掘になることを期待している。

©土木工事技術委員会の五つの部会・土木技術研究部会、土木技術研修部会、土木技術開発部会、環境技術部会、土木情報技術部会

「未来の土木コンテスト」最終審査結果は右記二次元コードよりご覧ください。



作品紹介

最優秀賞

<p>チーム シン・防災センター(憩いの場所)最新防災拠点</p> <p>構成員 【未来プランナー】 【土木エンジニア】</p>  <p>川戸 亮輔 山口県立川戸小学校 6年生</p>  <p>池松 達治 東京建設株式会社</p>  <p>福本 正 東京建設株式会社</p>  <p>小島 文寛 東京建設株式会社</p>  <p>田中 卓也 東京建設株式会社</p>  <p>岩原 伸浩 大成建設株式会社</p>  <p>石井 雅子 東京建設株式会社</p>  <p>山田 美佳 東京建設株式会社</p>	 <p>「シン・防災センター」の施設・設備案内</p> 
--	--

概要
(未来プランナー)
災害時、避難所のニュース映像は、苦しい避難生活をしているように見えました。
平常時はたくさんの方が憩いの場所として利用でき、
災害時には地域に住む人々にとって便利で頼りがある施設があったら、
その町に住むことが安心につながると思います。
また、**憩いの場所**について、自然の力を利用して涼しく快適に過ごすことができないか考えました。
冷たい川の水やひんやりした地下を活用し、周りの自然をなるべく破壊することなく、自然と建物、
川と人間が仲良くできる仕組みを持った建物を考えました。それが「シン・防災センター」です。

(土木エンジニア)
「憩いの場所」最新防災拠点を両立するためのアイデアについて、技術的検討を行いました。

<p>憩いの場所のアイデア</p> <p>憩いの場所を利用する、複合型防災システム</p> <p>緑地で、憩いの場所</p> <p>自然エネルギーによる発電施設</p> <p>新しい施設が生まれる建物(工場、科学館)</p> <p>憩いの場所とセンターをつなぐ、モジュール</p>	<p>土木エンジニアの検討</p> <p>建物中心にある場合、雨水溜りや熱い空気、建物設備が壊れます。</p> <p>建物中心に設置する場合は、憩いの場所が壊れる可能性があります。</p> <p>水、太陽熱、バイオマスエネルギーなど、自然エネルギーを利用し、施設内で発電します。</p> <p>憩いの場所には、憩いの場所が壊れる恐れがあります。</p> <p>施設内で発電した電力を蓄電し、建物のほかにも利用できるようにします。</p>
--	--

優秀賞

最終選考会の様子

23 | RCe 2023.03

22